

【イベント名】

令和7年度いきいきキャリアスタート事業 宮城県気仙沼高等学校

【開催概要】

開催日

令和7年12月5日（金）

時間

11:35～12:20

場所

宮城県気仙沼
高等学校

参加人数

1年生 179名

主催 宮城県

共催 宮城県気仙沼高等学校

プログラム

- 11:35～ 流れの説明（3分）
宮城県気仙沼高等学校
- 11:38～ 第一部「男女共同参画 基礎講座」（10分）
宮城県環境生活部 共同参画社会推進課
男女共同参画推進専門監 大沼 史柄
- 11:48～ 第二部「ゲストトーク」（20分）
東北労災病院 臨床研修医 藤本 瑞生 さん
ファシリテーター
株式会社cue 代表取締役 浅利 賀名衣 さん
- 12:08～ 第三部「ワークショップ」（12分）
12:20 終了
※アンケートは終了後、各自実施

第一部「男女共同参画基礎講座」

宮城県環境生活部 共同参画社会推進課
男女共同参画推進専門監 大沼 史柄



就職後の生活を見据えると、ワークライフバランスが重要である。ワークライフバランスとは仕事と生活の調和であり、私生活の充実が仕事の質の向上にもつながると伝えた。データから、日本では女性が結婚・出産後に就業や正規雇用を離れやすく、男性は長時間労働により家事・育児への参加が少ない現状が示され、その背景に性別によるアンコンシャス・バイアスがあると指摘した。

男女共同参画社会とは、性別に関係なく誰もが意欲に応じて活躍できる社会。国や県では育児休業制度の拡充や、女性活躍・両立支援に取り組む企業認証制度を整備しており、将来の進路選択ではこうした視点を持つことが大切だと伝えた。

第二部「ゲストトーク」

＜卒業生ゲスト：東北労災病院 臨床研修医 藤本 瑞生 さん＞

○ 男女共同参画と職場環境

- ・勤務先の病院では女性医師の割合が比較的高く、活躍の場が広い。
- ・若い世代では「男女関係なく働く」という意識が浸透してきている。
- ・妊娠・出産などで働き方に差が出る場面もあるが、時短勤務や外来専任など柔軟な働き方が可能。

○ ワークライフバランス

- ・研修医として多様な科をローテーションしながら勤務し、有給休暇や長期休暇も取得しやすく、旅行や野球観戦などプライベートも充実している。
- ・急な救急対応で予定が崩れることはあるが、過酷な長時間労働は少なく「ホワイトな職場」と感じている。

○ 学びの工夫

- ・高校時代から「やることリスト」を作り、タスクを細分化して達成感を得る習慣がついている。
- ・スキマ時間を活用して勉強を進める工夫を継続している。

《 後輩へのメッセージ 》

- ・目標を持つことが大切。大学進学を目的にするのではなく、「学びたいこと」「就きたい仕事」「取りたい資格」を意識して進路を選んでほしい。
- ・人とのつながりを大切にほしい。周囲とのコミュニケーションや支えによって新しい出会いや成長につながる。
- ・将来的には気仙沼市に戻り、消化器内科医として地域医療に貢献したいと考えており、「医師・看護師・医療職として、いつか一緒に働けたら嬉しい」と、在校生に呼びかけた。



第三部「ワークショップ」

第一部の男女共同参画基礎講座と、第二部のゲストトークを聞いて、未来の自分をイメージしてワークシートに記入した。

《生徒の感想※一部抜粋》

●男女共同参画を進める上で、どのような取り組みが必要だと思いますか。

- ・性別による固定的な役割分担意識をなくすこと。一人一人の意識改革が必要。

●ゲストトークの感想

- ・今のうちから目標を持って行動したり、自分がやりたいことを実現できるようにしていきたいと思った。
- ・自分の目標を達成するためにやるべきことを細分化して取り組むことが重要だと分かった。日常の中で興味を持ったものは積極的に取り組みたいと思った。

●ワークショップの感想

- ・自分が意外と興味を持っているものが少なかったり、目標が曖昧だったなと実感できた。未来が楽しみになった。
- ・自分のことについて考える事と、将来についてのことを考え言語化することで意識が高まった。

